

議題1（委員会決裁事項（規則第3条第1号））

大阪府立学校条例及び大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画に基づく
令和3年度実施対象校（案）について

標記について、別紙のとおり方針を示し周知を行うことを決定する。その上で、様々な
意見を踏まえ、令和3年11月の教育委員会会議において最終決定する。

令和3年8月30日

大阪府教育委員会

1 令和3年度の方針

令和3年度は、特色ある教育活動を他校に継承・発展させる機能統合による学校の再編整備に着手する。

2 機能統合により再編整備する学校

対象校 (所在地)	機能統合先となる学校 (所在地)	対象校 募集停止時期	機能統合 開始時期
しまもと 島本高校 (島本町)	あぶの 阿武野高校 (高槻市)	令和5年度 入学者募集時	令和5年度から
まった 茨田高校 (大阪市鶴見区)	のざき 野崎高校 (大東市)	令和5年度 入学者募集時	令和5年度から
いずみとっとり 泉鳥取高校 (阪南市)	りんくうしょうなん りんくう翔南高校 (泉南市)	令和5年度 入学者募集時	令和5年度から

3 対象校の選定理由

機能統合による再編整備

① 島本高校と阿武野高校

- **島本高校**は、昭和 49 年に普通科として開校した。平成 23 年度からは「保育専門コース」を設置し、幼稚園教育要領の 5 領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を意識したカリキュラムの中で、近隣の保育所での体験実習や大学等と連携した特別講義、充実したピアノ指導等を行っている。

また、生徒が企画した行事を通じて海外の高校と交流を深める等、コミュニケーション力の向上や英語教育の充実につながる取組みも行っている。

しかし、学校や関係者の尽力にもかかわらず、中学校卒業生数が減少する中、同校では平成 31 年度以降 3 年連続して入学を志願する者が定員に満たない状況（令和 3 年度選抜：158 人）が続いており、また、同校の在籍生徒の主たる居住地である高槻市における今後の中学校卒業生数も減少傾向にあることから、同校を志願する者の数の改善が見込めない状況となっている。

- 島本高校から南西約 7.3 km に立地する**阿武野高校**は、昭和 58 年に普通科として開校し、平成 18 年度には「スポーツ専門コース」と「福祉専門コース」を設置した。現在は「福祉専門コース」を「福祉・保育専門コース」に変更し、授業を通じて高齢者・障がい者・子どもとの関わり方を学ぶことをめざして、大学や福祉団体と連携した参加型授業や、高齢者施設・障がい者施設、保育所での体験実習等を行っている。また、アメリカの高校と姉妹校提携を結んで短期留学を行うなど国際交流も行っている。

加えて、平成 13 年度から 5 年間の「知的障害のある生徒の高等学校受入れに係る調査研究」を経て、平成 18 年度から「知的障がい生徒自立支援コース」を設置し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進している。

- 島本高校が「保育専門コース」で培ってきた、授業や実習を通じて体験的に学び、進学後に必要な技術を習得するノウハウを阿武野高校の「福祉・保育専門コース」に継承・発展させ、教育内容の充実を図る。あわせて、島本高校で行っている生徒主体の国際交流のノウハウを阿武野高校に継承し、交流のすそ野を拡げる。
- 以上のように、島本高校の特色ある取組みを阿武野高校に継承・発展させる機能統合を実施する。

《参考》

1. 入学者数の状況

＜島本高校＞

学科	選抜結果						創立年	生徒数 (R03)	
		H29	H30	H31	R2	R3			
普通科	一般選抜	募集定員 (人)	240	240	240	240	240	S49	297
		入学者数 (人)	219	225	150	130	73		
	二次選抜	募集定員 (人)	21	15	90	110	167		
		入学者数 (人)	7	15	8	12	9		
	募集定員に満たない数 (人)	14	-	82	98	158			
一般選抜倍率	0.92	0.94	0.63	0.54	0.31				

＜阿武野高校＞

学科	選抜結果						創立年	生徒数 (R03)	
		H29	H30	H31	R2	R3			
普通科	一般選抜	募集定員 (人)	280	240	240	240	240	S58	714
		入学者数 (人)	250	240	240	240	240		
	二次選抜	募集定員 (人)	30	-	-	-	-		
		入学者数 (人)	17	-	-	-	-		
	募集定員に満たない数 (人)	13	-	-	-	-			
一般選抜倍率	0.89	1.16	1.13	1.15	1.10				

2. 全入学者に占める1つの行政区（高槻市）から両校に入学した生徒の割合（令和3年度）

行政区	島本高校	阿武野高校
高槻市	45.1%	81.3%

3. 今後の中学校卒業生数の見込み

《高槻市》

	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3
卒業生数 (人)	2,820	2,960	2,960	2,890	2,800	2,760	2,650	2,510	2,640

※ 学校基本調査（令和2年5月1日現在）による府内公立小・中学校在籍児童・生徒数から推計したもの。

② 茨田高校と野崎高校

- ・ **茨田高校**は、昭和 50 年に普通科として開校した。平成 22 年度には仲間どうしの話合いを通じて問題を解決するピア・メディエーションの手法を取り入れた「コミュニケーションコース」を設置し、地域社会で活躍できるコミュニケーション力豊かな人材の育成を図るとともに、習熟度別少人数授業や終礼時に行う数学・英語等の小テスト「茨田検定」により基礎定着と学力の向上をめざす取組みを行ってきた。

また、あいさつ運動や地域の清掃活動への参加、地域の中学校の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の開催など、地域と連携した取組みを行ってきた。

- ・ また、茨田高校から東へ約 5.0 km に立地する**野崎高校**は、昭和 51 年に普通科として開校し、生徒一人ひとりの進路希望に応じた「Active コース」、「Basic コース」、「Challenge コース」の 3 つのコースを設置し、資格取得を目標とする授業など多様な選択科目を設けるとともに、地域とともに取り組む人権教育や清掃活動、保育園との連携等を通じ、地域に根ざした高校として、生徒の多様な進路実現を図ってきた。

・ しかし、学校や関係者の尽力にもかかわらず、中学校卒業生数が減少する中、茨田高校では平成 31 年度以降 3 年連続して入学を志願する者が定員に大きく満たない状況（令和 3 年度選抜：129 人）が続いており、野崎高校においても、平成 31 年度以降 3 年連続して入学を志願する者が定員に満たない状況（令和 3 年度選抜：52 人）が続いている。

加えて、両校の在籍生徒の主たる居住地の行政区（門真市、大阪市城東区、大阪市鶴見区、守口市、大東市、寝屋川市、東大阪市）における今後の中学校卒業生数も減少傾向にあることから、入学を志願する者の数の改善が見込めない状況となっている。

- ・ そこで、茨田高校が「コミュニケーションコース」で培ってきた、より良い人間関係を構築するための豊かなコミュニケーション力を育成するノウハウを、野崎高校に継承・発展させる。あわせて、両校が取り組んできた挨拶運動や地域の清掃活動、ボランティア活動など地域に根ざした教育活動の充実を図る。
- ・ 以上のように、茨田高校の特色ある取組みを野崎高校に継承・発展させる機能統合を実施する。

《参考》

1. 入学者数の状況

＜茨田高校＞

学科	選抜結果						創立年	生徒数 (R03)	
		H29	H30	H31	R2	R3			
普通科	一般選抜	募集定員 (人)	240	240	240	240	240	S50	346
		入学者数 (人)	223	240	178	155	108		
	二次選抜	募集定員 (人)	17	-	62	85	132		
		入学者数 (人)	14	-	16	11	3		
	募集定員に満たない数 (人)		3	-	46	74	129		
	一般選抜倍率		0.93	1.09	0.74	0.65	0.45		

＜野崎高校＞

学科	選抜結果						創立年	生徒数 (R03)	
		H29	H30	H31	R2	R3			
普通科	一般選抜	募集定員 (人)	240	240	240	240	240	S51	579
		入学者数 (人)	238	240	238	233	186		
	二次選抜	募集定員 (人)	2	-	2	7	54		
		入学者数 (人)	0	-	0	3	2		
	募集定員に満たない数 (人)		2	-	2	4	52		
	一般選抜倍率		0.99	1.09	1.00	0.97	0.78		

2. 全入学者に占める7つの行政区（門真市、大阪市城東区、大阪市鶴見区、守口市、大東市、寝屋川市、東大阪市）から両校に入学した生徒の割合（令和3年度）

行政区	茨田高校	野崎高校
門真市 大阪市城東区 大阪市鶴見区 守口市 大東市 寝屋川市 東大阪市	78.3%	55.8%

3. 今後の中学校卒業生数の見込み

《門真市、大阪市城東区、大阪市鶴見区、守口市、大東市、寝屋川市、東大阪市の合計》

	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3
卒業生数 (人)	10,240	10,470	10,500	10,110	9,910	9,560	9,450	9,220	8,850

※ 学校基本調査（令和2年5月1日現在）による府内公立小・中学校在籍児童・生徒数から推計したもの。

③ 泉鳥取高校とりんくう翔南高校

- **泉鳥取高校**は、昭和 51 年に普通科として開校した。生徒の希望に応じて進学・就職のどちらにも挑戦できる学校として、習熟度別により基礎から丁寧に学習できるきめ細かな授業や、資格取得に向けた放課後学習会等に取り組んできた。また、単位認定を行うインターンシップや体験型進路ホームルーム等によるキャリア教育の充実を図っている学校である。加えて、「国際交流基金 関西国際センター」（田尻町）や地元公民館での活動への参加など地域に根ざした教育活動を行っている。

しかし、学校や関係者の尽力にもかかわらず、中学校卒業生数が減少する中、同校では平成 31 年度以降 3 年連続して入学を志願する者が定員に満たない状況（令和 3 年度選抜：80 人）が続いており、また、同校の在籍生徒の主たる居住地の行政区（阪南市、岸和田市、泉佐野市、泉南市、貝塚市、泉南郡）における今後の中学校卒業生数も減少傾向にあることから、同校を志願する者の数の改善が見込めない状況となっている。

- 泉鳥取高校から北へ約 3.2 km に立地する **りんくう翔南高校**は、泉南高校と砂川高校を統合整備し、平成 21 年に普通科として開校した。「未来を力強く生き抜く強くて思いやりのある人材」を育成するため、地域の様々な関係機関と連携し、「豊かな人間性」、「健康体力」、「確かな学力」のバランスが取れた教育活動に取り組んでいる。

放課後の 5 教科特別授業「特講」の実施など、生徒一人ひとりの進路実現をめざしたきめ細かな指導を行い、基礎学力とともに大学進学への応用力を身に付けられる高校である。また、専門コースである「ハートフルほいくコース」を設置し、豊かな心や優しさを培い、幼児教育にかかわる現場で活躍できる人材の育成もめざしている。

- りんくう翔南高校に泉鳥取高校がこれまで取り組んできたインターンシップや体験型進路ホームルーム等のキャリア教育のノウハウを継承し、りんくう翔南高校のキャリア教育や「ハートフルほいくコース」における保育園実習などの充実を図る。あわせて、泉鳥取高校がこれまで進めてきた地域に根ざした教育活動のノウハウも継承する。
- 以上のように、泉鳥取高校の特色ある取組みをりんくう翔南高校に継承・発展させる機能統合を実施する。

《参考》

1. 入学者数の状況

＜泉鳥取高校＞

学科	選抜結果						創立年	生徒数 (R03)	
		H29	H30	H31	R2	R3			
普通科	一般選抜	募集定員(人)	240	240	240	240	240	S51	509
		入学者数(人)	240	240	202	224	158		
	二次選抜	募集定員(人)	-	-	38	16	82		
		入学者数(人)	-	-	23	15	2		
	募集定員に満たない数(人)		-	-	15	1	80		
	一般選抜倍率		1.05	1.02	0.85	0.93	0.66		

＜りんくう翔南高校＞

学科	選抜結果						創立年	生徒数 (R03)	
		H29	H30	H31	R2	R3			
普通科	一般選抜	募集定員(人)	240	240	240	240	240	H21	674
		入学者数(人)	228	240	231	240	240		
	二次選抜	募集定員(人)	12	-	9	-	-		
		入学者数(人)	12	-	4	-	-		
	募集定員に満たない数(人)		-	-	5	-	-		
	一般選抜倍率		0.95	1.07	0.96	1.01	1.01		

2. 全入学者に占める6つの行政区(阪南市、岸和田市、泉佐野市、泉南市、貝塚市、泉南郡)から両校に入学した生徒の割合(令和3年度)

行政区	泉鳥取高校	りんくう翔南高校
阪南市 岸和田市 泉佐野市 泉南市 貝塚市 泉南郡	97.5%	95.0%

3. 今後の中学校卒業生数の見込み

《阪南市、岸和田市、泉佐野市、泉南市、貝塚市、泉南郡の合計》

	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3
卒業生数(人)	4,990	4,880	4,820	4,720	4,530	4,400	4,380	4,170	3,920

※ 学校基本調査(令和2年5月1日現在)による府内公立小・中学校在籍児童・生徒数から推計したもの。



大阪府立泉鳥取高等学校存続に関する要望書

平素は、本市教育行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、阪南市内の唯一の高校である大阪府立泉鳥取高等学校（以下「泉鳥取高校」という。）の運営にご尽力いただいていることに対し、改めまして感謝を申し上げます。

泉鳥取高校は、昭和51年に創立され、これまで、普通科高校として1万3,183人の卒業生を世に送り出し、大阪南部地域の事業所や産業機関等、地域振興を支える人材の輩出に大変重要な役割を果たしてきた高校です。

そして、泉鳥取高校は、近年、地域の学校として本市を中心に地元フェスタへの参加や幼稚園・小中学校との交流を積極的に行い、また、公民館活動や文化芸術活動においても、市民と協働する高校生が集う学校として、多くの市民層と熱心に交流を重ねてこられました。この他、学校図書館の開放事業やイングリッシュカフェの共同実施、スポーツ交流事業等を通じ、本市の地域活性化や市政充実に大きく貢献していただいているところです。

このような中、泉鳥取高校は地元校として、本市をはじめとする泉南地域在住の中学生の進路選択校となってきました。

市内や近隣の高校生が通うことが可能な公立普通科高等学校（以下「普通科高校」という。）は、泉南地区内においても複数校ありますが、今般、泉鳥取高校が再編整備の対象校となり、廃校となった場合には、府南部に位置する市町の生徒は、事実上、普通科高校への進学の実選の幅を大きく狭められることになり、家庭の事情等により地元校を選ばざるを得ない生徒もいる中、公立高校の有するセーフティーネットとしての機能を、府南部地域の生徒や家庭が享受することが困難となります。

また、大阪府立学校条例第2条第1項においては、「府立学校は、・・・府立学校の特色その他の事情を総合的に判断し、・・・配置されるよう努める」とされており、市域の中学生の高校進学を均等に確保する観点からも、本市のように市内に高校が1校しかなく、近隣に私学の高校も少なく、事実上、当該市内高校以外に受験可能な高校が無い地域においては、再編整備の対象校の要件を定める同条第2項の適用に当たっては、慎重に判断されるべきものと考えています。

具体的には、その要件として、「3年連続して定員に満たない高等学校で、その後も改善する見込みがない」とされていますが、泉鳥取高校は、昨年度は1名のみが定員に満たなかっただけであることからすると、改善する見込みについては、今後の志願者数の動向を見極めて判断する必要があり、直ちに再編整備の対象とされないよう要望いたします。

また、現在、府内では町村を除き私立を含め高等学校のない市は存在しない中、本市にとって泉鳥取高校は、きわめて重要な位置を占める社会資源であり、同校は無くてはならない機能をもつ重要な施設となっているだけでなく、都市格を形成する観点からも不可欠な施設であることから、泉鳥取高校の存続を強く要望します。

大阪府教育委員会

教育長 橋本 正司 様

令和3年7月5日

阪南市長

水野 謙二